

## 令和元年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川中学校

校長 磯田 輝昭

## 1 目指す学校像 明るく元気、地域の誇り桶川中学校

## 2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価
			評価	説明及び学校の考え（・具体策）	
組織・運営	1	校務分掌の各主任を中心に、分掌内で課題を共有し、前年度の反省を生かした計画を立てて実践する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校全体にかかわる分掌と、各学年で分担する分掌のバランスを調整する。計画を立てる段階で、関係する職員と相談・調整しておく。</li> <li>○校務分掌の各主任による行事の計画・立案時に、反省の予定まで組み込まれている行事もあるなど、随時振り返りを行い、来年度へ生かすことが計画的に実践されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織全体の情報の共有化が適切に実施できている。</li> <li>・教員一人一人が人間らしく、教員としての業務を遂行できる環境を引き続き作ってほしい。</li> </ul>
	2	学年や分掌ごとの主任がリードし、各担当で連携をとり、組織的に校務を進めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年内では迅速な報告・連絡・相談があり、情報の共有、指導に当たることができた。一方で学年間の指導の統一性に関して幾分か課題があった。より密な連携を目指していく。</li> <li>○会議の内容について、全体で情報共有する方法を確立しておく必要がある。</li> <li>○校務分掌のリーダーが、職務の内容をきちんと把握し、各担当と連携を取りながら、校務を進めていくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間のチームワークの良さを感じる。組織運営の項目の評価が上がったのは、今年度の成果であると感じる。</li> </ul>
	3	職員相互の尊敬・信頼・協力を高め、働き甲斐と張りのある明るい職場をつくる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間同士の関係は、一朝一夕に改善するわけではないので、まずは日常のコミュニケーションや挨拶等の「職場として当たり前の行動」を積み上げていく。</li> <li>○学年の枠を越えて、他学年のつながりも深めていけると今まで以上にさらに活発で明るい職場が作られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な人間関係を築いていく必要性を感じる。</li> <li>・働き方改革を今後も推進してほしい。</li> </ul>
学習指導	4	各教科・領域等の指導で、学習への興味関心を高め、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科会などでは、きめ細かな継続的な教材研究を通して、基礎的・基本的事項の精選と構造化を図っている。それにより生徒の知識・技能の習得がなされている。</li> <li>○学習に対する苦手意識の強い生徒の興味・関心を高めること、知識・技能の定着をさせることに困難を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は授業が勝負。学力差を埋めることは難しいが、教員の努力は必要である。</li> <li>・義務教育課程で限界もあるであろうが、低学力生徒のキャッチアップと高学力生徒のフォローに対し具体的な取組を行ってほしい。</li> </ul>
	5	各教科（道徳を含む）・領域等の指導において、生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、必要な言語活動の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校課題研究の中でも取り上げられている事項であり、昨年度に引き続き生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるための授業が展開されている。</li> <li>○低学力の生徒については十分な結果が得られていない。手立てを考えていく必要がある。</li> <li>○意図的に時間と場面を工夫し、言語活動を取り入れるようにする。教科会などを通して、位置づけを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題研究で行っているそうだが、「主体的、対話的で深い学び」の推進、アクティブラーニングの推進を今後も行ってほしい。</li> </ul>
	6	各教科（道徳を含む）・領域等の指導において、生徒が見通しをもって学習に取り組むとともに、内容を振り返る活動を行い主体的な学習を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が見通しをもって活動できるように、教師が工夫して授業展開をしている。</li> <li>○振り返りを記入させるカードや表などを作成し、振り返りの時間をとっている。</li> <li>○授業の見通しがもてる生徒は増えてきたが、研究課題と関連して、一層工夫し徹底していくべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループで課題について解決方法を考えること、お互いに教える、教わるという関係をつくることは、学力を伸ばす一つの手段になるであろう。</li> </ul>

生徒指導・教育相談	7	生徒指導上の諸課題に対して組織的に対応し、きめ細かく指導・支援を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導部会や教育相談部会で各学年の情報を交換することができた。職員会議や学年会等だけではなく、「生徒指導だより」や「校務支援」等による情報の共有ができた。早期に対応ができた。</li> <li>○情報共有が学年で終わってしまっている場合がある。その後の計画についても情報がなく、組織的な対応が難しい状況の時もある。</li> <li>○不登校対応で学習支援室の設置ができてよかった。担当の教員だけの負担にならないよう、皆で協力することが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援室を設置したことはよかった。学習しやすい落ち着いた環境である。</li> <li>・学習支援室のしきりが効果的である。不登校傾向の生徒も、登校し、学習支援室に入る気持ちになるのではないか。</li> <li>・職員の情報共有は大切である。</li> <li>・いじめを起こさないような環境づくりは大切である。2者面談は、生徒が誰かに相談するという体制を整えるうえで、効果的である。</li> <li>・心を育てるにあたり、教員の言動についてもご考慮いただきたい。</li> </ul>
	8	生徒の「心」を育て、適切な判断力を培うことによって、安心して安全な行動がとれるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年職員や部活動顧問との連携をとる。</li> <li>○即効性は求められないと思うので、地道に意図的な指導を続けていく。</li> <li>○道徳の授業だけでなく、普段の生徒とのコミュニケーションから相手を思いやる行動、言葉がけをしていくようにする。</li> </ul>	
	9	生徒同士によるいじめを防止する。発生してしまった場合は、事態を迅速に把握・対応し、解消とその後の見届けをする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケートや2者面談を行うことで、生徒がいろいろな話を教員にしやすい環境になった。</li> <li>○学校で策定した基本方針や組織を生かし、いじめの発生を未然に防ぐような環境の整備や実態の把握に努めていた。いじめの発生時には、チームでの迅速な対応を行うことができた。</li> <li>○いじめの起こりにくい環境の整備は不十分な面があった。</li> </ul>	
健康教育	10	健康教育の指導の充実を図るため、年間指導計画（学校保健・食に関する指導）に基づいた指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中合同学校保健委員会のストレス対処法の話し合いは効果があった。その後、保健委員を中心として全校に広めることができた。</li> <li>○毎日の健康観察や出欠黒板の記入など普段の指導、通信の発行など、きめ細かに指導している。</li> <li>○委員会活動を通し生徒の健康への関心が高まり、歯磨き、手洗い等よくやっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートの避難訓練など、いざというときの対応を訓練していくことは大切なことである。</li> <li>・大きな災害が起こりにくい立地ではあるが、指導者のミスジャッジによる災害が起きないように引き続き訓練願います。</li> <li>・生徒にとって安全・安心できる環境をこれからも整えていってほしい。</li> <li>・修繕していない箇所があった。生徒の安全・安心な学習環境を考えると心配である。</li> </ul>
	11	施設・設備の安全点検を常時実施し、事故を未然に防止するよう努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全点検は毎月しっかり実施されており、危険個所の発見や事故を未然に防止できている。</li> <li>○点検はしっかりと行われているが、個人単位の修繕ではどうにもならない部分が解決されていないことが課題である。</li> </ul>	
	12	危機管理マニュアル及び防災マニュアルの改善を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理および防災マニュアルが学校の実態に応じて作成・改善されている。</li> <li>○学校防災計画はきちんと作成されたものが年度当初に配布されるが、避難訓練などで機会を捉えて目を通し、いざというときに実践できるようにする。</li> </ul>	
学習環境	13	機能的、美的な掲示教育を進め、校内に活気と潤いをもたせる。特に、教室経営の核である教室掲示を重視する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインを取り入れた教室掲示ができています。</li> <li>○学年掲示を迅速に行い、タイムリーな掲示物を心がけている。</li> <li>○美術科中心に生徒の作品が多い掲示・展示ができています。</li> <li>○掲示の期限が過ぎた掲示物は、掲示した担当者が貼り替えるなどして、時と場に応じた掲示を常に工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示してある生徒の作品がすばらしい。生徒の心豊かな部分が垣間見られる。</li> <li>・ICT環境など、環境の整わない中で、適材適所で効率的に運用し、成果の最大化が図れていると感じた。</li> <li>・清掃指導で、清掃に対するモチベーションを上げ、学習環境をきれいなものにしていく必要がある。</li> <li>・ほうきの使い方、私語なし</li> </ul>
	14	各教科・領域等の指導において、確かな学力等をはぐくむために、ICT機器を活用した授業の改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器の数が少ない（環境が整っていない）ため、授業で活用することが難しい。</li> <li>○意欲的に動画や画像を使い、生徒の興味・関心を高め、知識習得の確認を行うことができた。</li> <li>○ICT機器を活用するための教員研修が必要である。</li> </ul>	

	15	全校生徒・職員で協力し、清掃等の活動を通して学校全体の美化を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員に自ら学校の美化活動へと積極的に取り組む姿勢があり、全生徒、全職員で清掃を行うことができた。</li> <li>○無言清掃を徹底できるとよい。</li> <li>○特別日課等で2日間清掃ができない、という日がないようにするとよい。</li> </ul>	<p>清掃など、小学生のうちから清掃指導を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAの協力もあり、校舎内外の整備ができています。</li> </ul>
教職員の資質向上	16	研修の機会や場を計画的に設定し、指導力の向上に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修会を通して研修計画が練られ、組織的・計画的な校内研修や教科部会などを通して、授業改善が図られるようになっている。</li> <li>○学期に1回程度は教科部会が開かれ、部員間の連携がされており、協力体制が構築されている。</li> <li>○評価指標である教職員実践目標をどれだけの人が意識しているか図ることができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の内容等を共有することで教員のレベルアップが可能となる。共有できた量を評価の指標とする方法もある。</li> <li>・「主体的、対話的で深い学び」の推進、アクティブラーニングの推進が大切である。</li> </ul>
家庭・地域との連携	17	PTA及び学校応援団と調整し合い、連携を深め、計画的に活動する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTA及び学校応援団の活動が、計画的・活発に進められており、とても協力的な保護者・地域の方が多く印象がある。</li> <li>○教員側の活動が、管理職を中心に特定の先生方に偏ってしまっているところがある。</li> <li>○土曜日などで難しいかもしれないが、職員がもう少し関わりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革の兼ね合いもあるが、管理職以外の先生方に、PTA、学校応援団活動に協力していただけるとありがたい。</li> <li>・PTA活動への参加は、保護者とコミュニケーションをとる一つの機会となる。</li> <li>・学校だより、ホームページ等学校からの情報発信はされている。学校の様子がわかってよい。</li> </ul>
	18	学校公開や家庭・地域との双方向の意見交換の場(紙面、会合<保護者会・懇談会等>)を設定し、より密な連携を実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校だより、ホームページ等学校からの情報発信はされている。他に学級懇談会や個別相談などの機会をとらえ、保護者との連携を図っていく。</li> <li>○HPが毎日更新され、学校の様子が保護者・地域にこまめに発信できた。</li> <li>○学年行事の保護者会は、年間行事予定に入れる。</li> <li>○学校公開を午後のみとしていく。</li> </ul>	
特別活動	19	生徒の自治的な活動を尊重し、自治的な活動による学校改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動などを中心とした生徒の自主的な活動は、今後も教師側の適切な指導のもと、学校生活をより良いものとするために継続させていきたい。</li> <li>○生徒会役員だけではなく、全校であいさつ運動やクリーン活動に取り組めるとよい。各委員会・委員長への指導をきちんと行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動等、生徒の自主性が定着していると感じた。</li> <li>・クリーン活動など生徒が地域に貢献する活動は大切である。今後も続けてほしい。</li> </ul>
	20	学級活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、学級経営の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級活動における話し合い活動を通して、生徒一人一人に役割を分担させ、自主的・実践的な態度の育成に努めることで、学級経営の充実を今後も図っていきたい。</li> <li>○年度当初に学級会オリエンテーションを行い、共通理解を図ったことが良かった。</li> <li>○学級会で決まったことを掲示するなどして、「見える」化するとよい。</li> </ul>	
総合的な学習	21	年間指導計画に沿って授業を実施し、生徒に自ら課題を見つけ主体的に問題を解決する能力をはぐくむ。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で総合的な学習の時間の取組を担当が考え、学年職員で共有し、生徒に伝えて計画的に進められている。</li> <li>○上級生の活動の様子やレポート、掲示物などを下級生に見せ、やり方を学ばせるとよい。</li> <li>○自己評価カード等共通理解が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の中で取り扱った内容がまとめられ、掲示してある。</li> <li>・次年度でのさらなる成果を期待する。</li> </ul>
部活動指導	22	合理的でかつ効率的・効果的な活動及び生徒の実態に応じた適切な指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの部活動において、活動方針に即して運営・指導することができた。活動内容の充実、安全面の確保が今後も必要である。</li> <li>○顧問の複数配置や外部コーチの導入など、効果的な人員配置をする必要がある。</li> <li>○気になる生徒の対応については情報共有・共通理解を常にしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の複数配置は必要である。</li> <li>・外部指導者を増やせると、教員の負担軽減につながる。</li> <li>・部活動指導の時間は少なくなっても、自主練習等強くなるための必要なことを生徒に伝えてほしい。</li> </ul>

